

活動分野	森に親しむ懇談会（もりこん163）		
タイトル	① 千葉氏と平将門 ② 稲毛地域の変遷と昭和30年代からの埋立について		
実施日時	2019年5月16日（木）18時45分～20時45分		
実施場所	船橋市中央公民館 5階第9会議室		
受講者	8名	FIC会員	8名

活動の内容 森林インストラクターが語る千葉の魅力についての懇談会

前半は井形講師による「千葉氏と平将門」。千葉県の森林インストラクターであれば、千葉氏の話は必須の話題。井形さんから、幅広い話題を提供してもらいました。

- 千葉市章は千葉氏の家紋である月星に千葉の「千」を入れ、大正10年の市制施行を記念して制定された。
- 千葉氏の開祖は平良文（桓武平氏、平将門の叔父）。
- 平将門は朝廷からは謀反人とされたが、東国武士からは武士の世を開いた英雄とされた。千葉氏は平将門の伝承と妙見信仰により一族の結束を図った。
- 千葉氏中興の祖といわれる千葉常胤は、源頼朝を強力に補佐して源平争乱や奥州合戦で大きな功績を上げ、源頼朝から大きな信頼を得て、御家人筆頭となった。
- 千葉氏は秀吉の小田原攻めにより、北条氏とともに滅亡した。
- 将門は死後怨霊となり、神田明神など各地に祀られた。大手町の将門首塚を巡っては関東大震災以降も祟りとされる事象が数多く発生している。

戦国時代に千葉氏が居城とした本佐倉城近くには、日本唯一の「将門町」がある。また将門口の宮神社、妻桔梗の墓との伝承の「桔梗塚」もある。

後半は、松島講師が幼少時を過ごした稲毛地域の変遷の歴史と見所について懇談しました。

- 稲毛の地形は縄文海進の影響などと推定されるが、崖や谷津など入り組んだ地形になっている。
- 稲毛では漁業・農業に由来した苗字（川島、海宝、植草など）が多い。
- 千葉での埋立が始まったのは寒川地区 1911年（明治44年）。以後川崎製鉄所、東電発電所などの建設に伴う埋立が1960年（昭和35年）頃まで行われていた。稲毛地区は、まだ「関東の須磨」と呼ばれた風光明媚な海浜風景が残っていた。なお当時は、JR 稲毛駅一体は開発が進んでおらず、稲毛の中心街は京成稲毛駅一帯であった。
- 1961年以降埋立が本格化した。1986年（昭和61年）までには、幕張から蘇我までの埋立がほぼ完成。その間にJR 稲毛駅一帯の開発も進み、現在に至っている。
- 急速な住宅・商業施設の建築により50年前の面影が失われてしまった地域が多いが、稲毛3丁目、5丁目は当時と区画が変わらず、まだ古い町並みが残されている。
- 浅間神社、千葉市ゆかりの家いなげ、旧神谷伝兵衛いなげ別荘、千葉トヨペット本社、稲毛公園、千蔵院、せんげん通り、稲毛公園を「稲毛八景」とし、付近の案内をする際のポイントとしている。



千葉市章



将門口の宮神社



「関東の須磨」稲毛海岸（京成電鉄資料）